

## (2) キジ目

### ① キジ (キジ科)

#### ア 対象種

キジ

#### イ 生息情報

全集落

#### ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名) から キジ、キジドリ
- ・ 鳴き声から (幼児向け) ケンケン、ケンケンドリ

#### エ 生息及び呼び名の状況

主として草地で見かけられる大型の留鳥であり、当時は郡内全集落に生息した。

狩猟鳥であったことに加え、雄は頭部の赤さとともに腹部にかけての緑色が目立ち、ケンケンといった鳴き声をあげる大型の鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「キジ」や「ケンケンドリ」をはじめ計4種を採録した。

郡内全域で標準和名である「キジ」と呼ばれたほか、幼児向けにはほぼ全域で鳴き声に由来し「ケンケン」、「ケンケンドリ」と呼ばれた。

#### オ 聞きなし

多くの集落で一般的な (雄の) 聞きなしを採録する一方、猟師や元漁師からは雌雄別の聞きなしがみられた。

- ・ キーキー                      ・ キッキッキ                      ・ キャンキャン                      ・ ケツケツ
- ・ ケンケン                      ・ ケンケーン                      ・ ケーンケン                      ・ ケーンケーン
- ・ チョケーンチョケーン
- ・ キッキッキッキ (雌)                      ・ キヨキヨ (雌)
- ・ チョチヨ (雌)                      ・ チョーチョー (雌)

#### カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「ケンケンドリが (夜) 鳴くと災いが起こる」
- ・ 「キジが (夜に) 鳴くと地震がいる」

#### キ その他

現在では、昭和初期より放鳥が行われたコウライキジとの交雑が進み、純粋なニホンキジはほとんどいないという。

その他、同じキジ目の鳥である「ヤマドリ」については、ほぼ全域で「ヤマドリ」の1種を採録した。



### (3) カモ目

#### ① マガモ (カモ科)

ア 対象種

マガモ

イ 生息情報

山間の集落を除くほぼ全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 カモ
- ・ 体色から アオクビ (雄)
- ・ その他 コガモ (小型)、ホンガモ

エ 生息及び呼び名の状況

ため池や流れの緩慢な水辺等で見かけられる  
冬の渡り鳥であり、当時は山間部の集落を除くほぼ郡内全集落に飛来した。

雄は繁殖期に緑色の頭部、白色の首の輪、黄色い嘴といった特徴がはっきりとする鳥であり、住民によく認識されるとともに、カモ類の代名詞ともなった鳥である。

本種の呼び名としては、「カモ」や「アオクビ」をはじめ計4種を採録した。

郡内全域で一般的な呼び名である「カモ」と呼ばれたほか、雄については一般的でないものの広い範囲で緑色の頭部に由来した「アオクビ」がみられ、ほぼ全域でそのようにも呼ばれたようである。

その他、小型の個体として「コガモ」がみられた。

オ その他

本種ではないが、藪に出入りするカモを「ヤブガモ」と呼ぶ集落がみられた。



#### (4) カイツブリ目

##### ① カイツブリ (カイツブリ科)

ア 対象種

カイツブリ

イ 生息情報

山間の集落を除くほぼ全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 標準和名 カイツブリ
- ・ 水にもぐること ミズクグリ、モグリ
- ・ その他 カイツ、カイツムリ、ツンプリ

エ 生息及び呼び名の状況

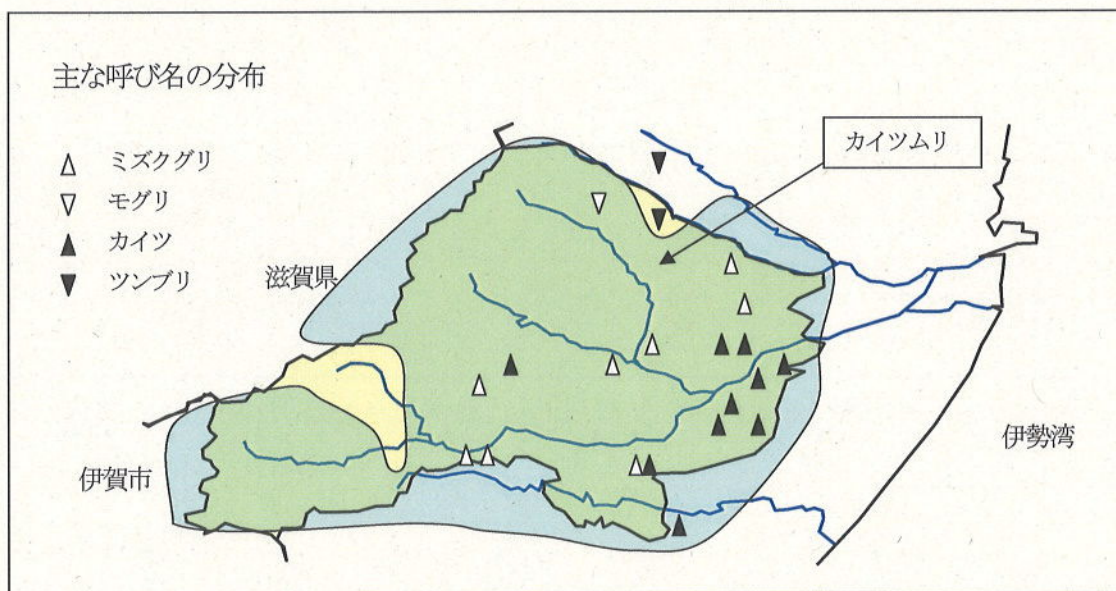
ため池や流れの緩慢な水辺等で見かけられる

黒味がかった体色の小型の留鳥であり、当時は山間部の集落を除くほぼ郡内全集落に生息した。

小さな黒いカモとして、ため池等が身近にある集落では住民によく認識されていた一方、そうした水場のない集落ではあまり認識されていなかった。

本種の呼び名としては、「カイツムリ」や「ミズクグリ」をはじめ計6種を採録した。

ほぼ郡内全域で「カイツムリ」と呼ばれたほか、一部の集落では水に潜ることに由来し「モグリ」や「ミズクグリ」、また短縮形でもある「カイツ」、「ツンプリ」とも呼ばれた。



## (5) ハト目

### ① キジバト (ハト科)

ア 対象種

キジバト

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 標準和名 キジバト
- ・ 鳴き声から クークードリ、クックドリ、クックードリ
- ・ その他 ジバト、ドバ、ドバト、ノバト、ヤマバト



エ 生息及び呼び名の状況

人家近くで見かけられる留鳥であり、当時は郡内全集落に生息した。木立等から特徴的な鳴き声をあげる身近な鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「ヤマバト」や「クックードリ」をはじめ計9種を採録した。

ほぼ郡内全域で「ヤマバト」、「キジバト」、「ドバト」、「ノバト」と呼ばれたほか、まばらであるが広い範囲で「クックードリ」等とも呼ばれた。

オ 聞きなし (抜粋)

- ・ クーククークー
- ・ クククククークー マメクイタイ (:クククククークー 豆食いたい)
- ・ ハクマイモテコイ ククククークー (:白米もてこい ククククークー)
- ・ マメガショーシュー マメガナイカ (:豆がしょーしゅー 豆がないか)

カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「ハトが鳴くと雨が近い」
- ・ 「ハトがツーツーと鳴くと豆を撒く時期」



### ② その他のハト類 (ハト科)

ア カワラバト

- ・ 呼び名 イエバト、カイバト (主に戦後、「ドバト」等と呼ばれるようになったという)

※ 当時はほとんど姿を見ることはなかった、又は少なかった旨の話がみられ、当時の生息状況がはっきりとしないことから調査対象としなかった。

イ アオバト

- ・ 呼び名 アオバト

## (6) ペリカン目

### ① コサギ (白色類) (サギ科)

#### ア 対象種

コサギ、チュウサギ、ダイサギ等

#### イ 生息情報

山間の集落を除くほぼ全集落

#### ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 サギ、シラサギ
- ・ その他 サギドリ、シロサギ

#### エ 生息及び呼び名の状況

水田や川などの浅い水場で見かけられる首や嘴が長い白色の留鳥である。現在はほぼ郡内全集落で見られるが、当時は山間部の集落ではほとんど見かけられなかったという。一方、平野部では同じ白色のより大型種を含め広い範囲に生息したようで、その名のとおり全身が白い鳥であり、住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「シロサギ」や「シラサギ」をはじめ計4種を採録した。

郡内全域でそのように呼ばれ、他の呼び名はみられなかった。

なお、より大型のチュウサギは夏の渡り鳥であり、呼び名としては同様に呼ばれた。



コサギ

### ② アオサギ (サギ科)

#### ア 対象種

アオサギ

#### イ 生息情報

山間の集落を除くほぼ全集落

#### ウ 採録した呼び名

- ・ 体色から クロサギ
- ・ その他 ゴイ、ゴイサギ、ゴイドリ、ヤマサギ

#### エ 生息及び呼び名の状況

水田や川などの浅い水場で単独又はシラサギ類に交じって見かけられる比較的色の黒い大型の留鳥である。現在はほぼ郡内全集落で見かけられるが、当時は山間部の集落ではほとんど見られなかったという。一方、平野部では広い範囲に生息したようで、住民に一定の認識がみられた。

本種の呼び名としては、「ゴイサギ」や「クロサギ」をはじめ計5種を採録した。

「シラサギ」と呼ばれた白色のサギ類と区別し、ほぼ郡内全域で、「ゴイ」、「ゴイサギ」等と呼ばれたほか、一部の集落に体色に由来する「クロサギ」や「ヤマサギ」がみられた。

本来、ゴイサギは別種であるが、その呼び名は一部の集落や人を除きアオサギの呼び名として広く使われていた。

#### オ 関係する伝承・諺等

※ 「ゴイドリごじゅう、シギしじゅう」

### ※ ゴイサギ

牧田地区等一部の集落や人を除いて、ほとんど認識がされていない鳥であったことから、調査対象としなかった。



## (7) カッコウ目

### ① カッコウ (カッコウ科)

#### ア 対象種

カッコウ

#### イ 生息情報

ほとんどの集落

#### ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名) カッコウ
- ・ 鳴き声から カッコドリ、カッコドリ、カッポドリ、カンコドリ、ツツカッコウ、ツツカッコウ

#### エ 生息及び呼び名の状況

山林などで特徴的な鳴き声をあげる留鳥であり、当時は郡内のほとんどの集落に生息したようである。

ホオジロやモズといった他の鳥の巣に卵を産みつける習性 (託卵) のある鳥である。

一般の住民がその姿を目にすることはほとんどなかったようであるが、ほぼ郡内全域で春になると山林からカッコウといった特徴的な鳴き声が聞かれ、それにより住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「カッコドリ」や「カンコドリ」をはじめ計7種を採録した。

ほぼ郡内全域でその鳴き声に由来し「カッコウ」や「カッコドリ」と呼ばれたほか、もの寂しい鳴き方をする鳥として「カンコドリ」とも呼ばれた。

その他、「カッポドリ」や「ツツカッコウ」が一部の集落で見られた。

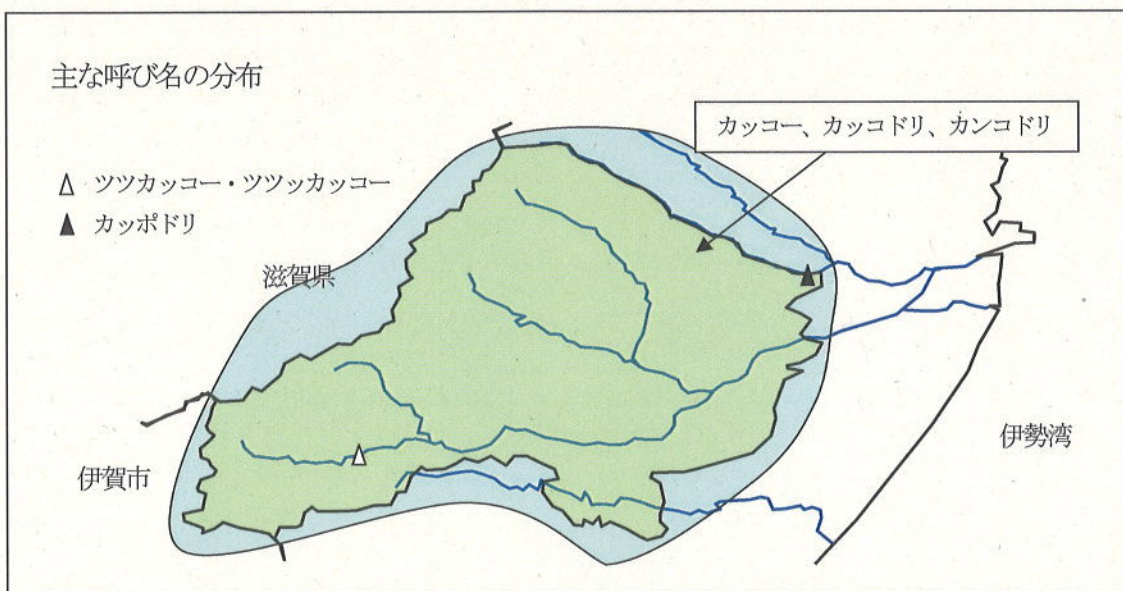
#### オ 聞きなし

ほぼ全集落で聞きなしを採録した。

- ・ カッコウ      ・ カッポ      ・ カンコウ
- ・ ツツカッコウ      ・ ツツカッコウ

#### カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「カッコウが (夕方に) 鳴くと雨が降る」
- ・ 「カンコドリが鳴くと小豆を撒く」
- ・ 金がなくなると「家の中でカンコドリが鳴く」と言った。



## ② ホトトギス (カッコウ科)

### ア 対象種

ホトトギス

### イ 生息情報

ほとんどの集落

### ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名)      ホトトギス

### エ 生息及び呼び名の状況

林や畑地の空からの特徴的な鳴き声をあげる夏の渡り鳥であり、当時は郡内のほぼ全集落に飛来したようである。

カッコウと同様にウグイスなど鳥の巣に卵を産みつける習性 (託卵) がある。

本種の呼び名としては、「ホトトギス」の1種を採録した。

郡内全域で標準和名である「ホトトギス」と呼ばれたほか、他の呼び名はみられなかった。

「ホトトギス」という呼び名や特徴的な鳴き声の聞きなし等で知名度の高い鳥であったが、住民がその姿を実際に目にすることは少なかったようで、生息状況については伝聞のものが多く身近な鳥としてあまり認識されていなかった。

一方、本種をよく知る一部の人からは、現在でも6月頃になると街中でも特徴的な鳴き声とともに飛翔が見かけられるという話があったことから、当時も街中を含め郡内全域で見られた鳥であったようである。

### オ 聞きなし

多くの集落で多様な聞きなしを採録した。

- ・ テッペンカケタカ (: 天辺かけたか)
- ・ テッペンカケタカ、ハシカケタカ (: 天辺かけたか、橋かけたか)
- ・ ハタタテカケタカ (: 旗立てかけたか)
- ・ ホンザンカケカタ (: 本山かけたか)
- ・ ホンゾンカケタカ (: 本尊かけたか)

### カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「ホトトギスが4回鳴くと、世の中良くなる」
- ・ 「ホトトギスは神様の使い」
- ・ ホトトギスが鳴くと「冬ごしらえをせー」と言った。

### キ その他

- ・ ホトトギスが「本山かけたか」と鳴くと、「金がないでよう建てん」と答えるといった鳥との掛け合い話がみられた。

